

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 千葉県立下総高等学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
所在地 〒289-0116 千葉県成田市名古屋 274  
E-mail k.shimofusa-h1@chiba-c.ed.jp  
Website http://www.shimofusa-high-school.com/  
幼児児童生徒数 男子 312 名 女子 83 名 合計 395 名  
幼児・児童・生徒の年齢 16 歳～18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、利根川下流域の稲作地帯で、近くに成田国際空港がある地域に位置し、農業、工業、商業の 3 つの学科をもつ専門高校として、「豊かな人間性を基盤とした職業教育の充実を図り、生徒一人一人の個性や能力を生かしながら、働く力を身に付けた持続可能な地域社会を支える職業人の育成」を学校教育目標としている。ESD を持続可能な社会を支える職業人を育成するための教育と捉え、ESD の実践を通して持続可能な地域社会を支える力の育成を目標とした。

具体的には、エコプロジェクト、農業後継者養成プロジェクト、地域貢献プロジェクトを柱に、①環境に係わる学習、②資源・エネルギーに係わる学習、③平和と人権に係わる学習、④国際理解に係わる学習、⑤地域貢献に係わる学習を行った。

### ① 環境に係わる学習

農業教育は環境教育であり、農業を学ぶことを通して環境問題を学び、地域の環境保全への意識を高め、実践することを目標としている。野菜や果樹栽培において減農薬、減化学肥料栽培に取り組み、課題研究では、竹の有効利用に

についての研究、真菰の水質浄化能力についての研究など、環境を意識した研究に取り組めた。また、年度末に行われる校内意見発表会では「環境」をテーマとした発表が多くみられ、ESDの成果が確認できた。

## ② 資源・エネルギーに係る学習

自動車について学ぶ自動車科では資源・エネルギーの問題は必須の学習事項である。課題研究では生徒は風力発電装置の製作や原動機付自転車の燃費の向上の研究などに取り組み、企業と連携した電気自動車の講習会なども実施した。自動車部はエコカーの全国大会で2,058km/リットルの記録で3連覇を達成した。また、生徒会は今年度からペットボトルキャップの回収運動に取り組み、全校生徒の資源・エネルギー問題への意識の向上に努めた。

## ③ 平和と人権に係る教育

学校教育の重点目標として「人権尊重の立場に立った教育の実践」を掲げ、沖縄修学旅行における平和学習を中心に、人権教育講座や主権者教育講演会などを実施した。

## ④ 国際理解に係る学習

平和な世界はお互いが理解することから始まる。毎年、台湾の職業高校との交流を行っているが、今年度はACCUを介して「日本／ブラジル ASPnet 教育交流プログラム」によりブラジルユネスコスクールの校長46名が視察に訪れたり、千葉大学の「グローバル人材の育成に向けたESD推進事業」でASEANの学生と交流する機会が得られたりした。また、成田ユネスコ協会の事業へ参加する機会もできた。ユネスコスクール認定されたことにより、国際理解のための学習機会が多くなった。また、自動車部はエコカーのベトナム大会に参加し、さらに、日本の大会に参加したベトナムチームが技術交流で本校に来校したりした。生徒会は書き損じはがき回収運動にも取り組んだ。生徒も職員も、コミュニケーションツールとしての英語の必要性を強く意識するようになった。また、成田空港関連会社への就職生徒数も増えている。

## ⑤ 地域貢献に係る学習

高度経済成長に伴う農業の後継者不足に対応するため、昭和43年に農業後継者育成高等学校の指定を受け、寮が設置された。現在も農業後継者の育成に取り組んでいるが、少子高齢化により事態の深刻さは加速している。学校として、地域の活性化に貢献できることは何かを考え、ボランティア活動や地域イベントでの農産物販売などに積極的に取り組んでおり、地域からも期待される学校となりつつある。販売実習体験等を通し地域の課題を認識するとともに、地域への愛着心が育っている。

## ⑥ 伝統と文化に係る学習

千葉県北総地域は、江戸時代は利根川の水運により栄えた地域であり、現在も当時の繁栄の面影を色濃く残しており、城下町佐倉～門前町成田～商都佐原～漁業の町銚子は日本文化遺産に指定されている。本校では、地域の伝統と歴史を理解し、誇りと愛着を育てることを目的に、伝統江戸野菜の栽培や、酒蔵と連携した学習、地域の伝承を聞き集める学習などに取り組んでいる。



① 減農薬・減化学肥料栽培



② 風力発電コンペ



② エコカー全国大会



② エコカー全国大会



③ 平和祈念講演



④ 台湾の高校生徒の交流



⑤ 地域イベントでの販売実習



⑥ 伝統江戸野菜の栽培

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (地域への貢献活動 )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他 (地域を愛し、地域の持続発展に貢献しようとする態度 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

園芸科－教科書「農業と環境」を中心に、関係資料を随時作成している。  
自動車科－教科書「原動機」を中心に、関係資料を随時作成している。

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校教育目標を「豊かな人間性を基盤とした職業教育の充実を図り、生徒一人一人の個性や能力を生かしながら、働く力を身に付けた持続可能な地域社会を支える職業人の育成」とし、「ユネスコスクール活動の充実～ユネスコスクールとして、環境、資源エネルギー、平和と人権、伝統と文化について学び、国際理解、地域貢献に積極的に取り組み、平和を願い、自然と文化を愛し、グローバルな視点で物事を考え、身近なところから実践しようとする態度を育てること」を重点目標の1つとした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

本校のユネスコスクール活動は生徒会が中心になって行っている。そこで、生徒会の活動を充実させるため生徒会担当教員の増員を図った。そして、校内組織として生徒会は生徒指導部に属し、ユネスコスクールの指導以外の業務も担当しているため、次年度からは生徒会担当教員の業務を生徒会関係の業務のみに限定することとした。また、ユネスコスクールに関する校長講話を4回実施し、生徒・職員のユネスコスクールに対する理解を深め、主体的に取り組む姿勢を育てることに努めた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

本年度は未実施である。次年度に、学校評価項目にユネスコスクール活動に関して評価する項目を加える予定である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

ESDの活動内容はホームページで随時発信している。また、学校案内パンフレットにより、中学生を対象とした学校説明会でユネスコスクールについて紹介している。その他、成田ユネスコ協会主催の研修会や千葉県高等学校教育研究会ESD部会研修会等においてユネスコスクール活動成果の報告を行った。ホームページについては、慶応大学SFC研究所アグリプラットフォームコンソーシアムから夢のある農業を描いていると評価され表彰された。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

成田ユネスコ協会主催の研修会、青少年国際文化交流教室、ユネスコ創立70周年記念展、世界寺子屋運動(書き損じはがき回収運動)などで連携した活動が実践できた。

また、千葉大学が形成するコンソーシアム「人間力を育む千葉ESDの地域展開」事業により、ESD研究会、企業フォーラム、教育研修、連絡協議会、成果発表会に参加し、企業、ASEANの留学生、県内のユネスコスクール等と連携を深めることができた。特に企業フォーラムを通じて千葉県内の農業の活性化に取り組む企業との連携の推進を図れたのは大きな成果である。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）  
※チェック事項 2-4 に対応

2017年6月に「日本／ブラジル ASPnet 教育交流プログラム」により、ブラジルユネスコスクールの校長46名が来校し、本校の環境学習についての取組を視察した。

2017年7月に千葉県内の高等学校、特別支援学校のユネスコスクールを中心とした21校により、千葉県高等学校教育研究会ESD部会が設立された。ESD部会では千葉大学と共催で生徒研修会、成果発表会及び教員研修会を実施した。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

今年度ユネスコスクールに認定されたが、ユネスコスクールに関する校長講話後の生徒の感想には「ユネスコスクールとして他の模範となる学校にしたい」等の感想がみられた。生徒、職員とも、これまでの本校の取組が評価されたものと肯定的にとらえており、書き損じはがきの回収や、ペットボトルキャップの回収、寮の食べ残し削減などの面で積極的な姿勢が出てきた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ①園芸科、自動車科を中心とした「環境」と「資源エネルギー」教育及び「国際理解」教育を柱にESDに取り組んでいく。情報処理科では課題研究の中でのESDの実践について研究を進めていく。また、生徒会を中心に生徒の主体的な取り組みを図り、活動の評価方法についても検討をすすめていく。
- ②国際理解教育については海外校の受け入れだけでなく、県内農業高校全体で、海外への代表生徒派遣事業について検討していく。
- ③成田市には、ユネスコスクールが小学校で1校、中学校も1校あり、本校も入れて、成田ユネスコ協会を中心に3校が連携した活動について検討を進めていく。
- ④千葉県高等学校教育研究会ESD部会における生徒研修、成果発表及び教員研修について、千葉大学と連携を図りながら積極的に取り組んでいく。